

医療費自己負担が医療サービスの利用及び健康状態に及ぼす影響

－生年月に基づく回帰不連続デザインによるエビデンス－

古村典洋¹ 杉本陽² 出水友貴³ 別所俊一郎⁴

要約

本稿では、1944年4月以降に生まれた者から70～74歳時点の医療費自己負担割合が引き上げられていることに着目し、生年月をランニング変数とする回帰不連続デザインを用いて、自己負担割合の引上げが、人々の医療サービスの利用、そして健康状態に対して中期的に及ぼす影響を分析した。その結果、この自己負担割合の引上げは、中期的にみても、健康状態を悪化させることなく医療サービスの利用を抑制していたことが発見された。この分析結果は、一般に、過度に患者負担を低く設定した健康保険は健康状態の向上に資さない医療サービスの利用を増加させてしまう可能性があることを示唆している。(JELコード：I11, I12, I13, I18, J14)

¹ 京都大学経済研究所

² 金融庁企画市場局

³ 元財務省財務総合研究所

⁴ 東京大学大学院経済学研究科